

令和7年度 あさぎり町議会 第8回会議(3月定例日) 一般質問通告書

質問順	質問者	質問事項	質問要旨	質問の相手
1	(6番議員) 加賀山 瑞津子 ※施政方針への 質問なし	1 人材育成につながる大会参加支援の今後の在り方について	<p>本町には、部活動や地域クラブ、文化活動において大会出場に対する補助金制度が設けられているが、県大会以上の大会に出場する際の交通費や宿泊費を考えると保護者等の負担は依然として大きく、十分とは言えない。近隣町村においては補助額の引き上げや対象経費の拡充など、実情に即した見直しを行っている例も見られる。大会への参加は、子ども達の成長を促し、将来の人材育成に繋がる重要な機会であり、町の将来への投資と捉えることもできる。</p> <p>こうした観点から、既存の補助制度について、近隣町村の取り組みも踏まえ、補助額の増額や条例内容の見直しを検討する考えはないか問う。</p>	町長 教育長
		2 ふるさと寄付金について	<p>ふるさと寄付金は、本町において子育て支援や高齢者支援など、住民の生活を支える重要な財源となっている。一方近年は寄付額が減少傾向にあり、支援策の拡充や継続に制約が生じているのではと危惧している。</p> <p>ふるさと寄付金は、返礼品の工夫や情報発信、寄付金の使途の明確化など、政策的な取り組みによって大きく左右される財源でもある。今後住民生活を支える安定的な財源を確保するため、ふるさと寄付金の増額に向け、どのような施策や取り組みを進めていくのか問う。</p>	町長
		3 リュウキンカフェスティバルについて	<p>町の花であるリュウキンカは、本町の自然環境を象徴する存在であるが、近年は環境の変化等により自生する株の激減が進んでいる状況にある。こうした課題に対し、行政による保全対策だけでなく、町民一人ひとりが関心を持ち皆で守り育てていく意識づくりが重要であると考えます。</p> <p>そのひとつの取り組みとして環境セミナー等の啓発事業に併せて、リュウキンカを題材としたスケッチ大会や写真コンテストなどを実施し、子どもから大人まで自然に親しみながら学ぶ機会を設けてはどうか。</p> <p>町花を通じた環境保全意識の醸成について、今後どのようにとりくむのか問う。</p>	町長 教育長
2	(7番議員) 橋本 誠 ※施政方針への 質問あり	人口減少に伴う持続可能な町づくりについて	<p>近年、少子化に伴い、生産年齢人口が減少している状況を踏まえて、町の存在も心配となって来ている。第3次総合計画に基づいて、今後の過疎地域であるあさぎり町の町づくりについて問う。</p> <p>① 少子化対策の現状と課題について</p> <p>② 生産年齢人口が減少していく中で、財政の見直しについて</p> <p>③ 少子化に伴い、生産年齢人口から減少する中で、町の中心になる人材育成について</p>	町長 教育長

令和7年度 あさぎり町議会 第8回会議(3月定例会) 一般質問通告書

<p>3</p>	<p>(9番議員) 豊永 喜一</p> <p>※施政方針への 質問あり</p>	<p>上地区石田橋に ついて</p>	<p>石田橋は、県管理河川免田川の柳別府区と塚脇区をつなぐ、今では希少となった木製の吊り橋で、百太郎溝整備時に架設され、長い歴史を刻んだ文化的、教育的な貴重な土木遺産でもある。</p> <p>この木橋は、免田川とサイフォンで交差して流れる百太郎溝管理堤防道路の一部区間をなす橋梁であり、溝管理、免田川堤防や隣接水田の管理においても無くてはならない大変重要な橋梁である。</p> <p>しかし、ここ10年近く老朽化を理由に修繕もされず放置され、通行止めとなっており、免田川で地域間が分断され、不便を強いられている等の内容で、令和6年4月に柳別府・塚脇区長、百太郎溝土地改良区の連名で、石田橋の架け替え工事着手に関する陳情書が提出され、議会では、6月定例会で、総務建設経済常任委員会へ付託され、9月定例会で趣旨採択となっているが、その後の取り組み状況と対策を問う。</p>	<p>町長</p>
<p>4</p>	<p>(2番議員) 加藤 弘</p> <p>※施政方針への 質問なし</p>	<p>1 人口減少対策に ついて</p>	<p>(1) 令和6年3月に令和13年度を目標として、「第3次あさぎり町総合計画」を策定しているが、その中に「自然増、社会増に繋がる積極的な取り組みを行い、総合計画の最終年の人口が12,480人となることを目指します。」とあるが、計画途中の現時点ではどのような状況か問う。</p> <p>(2) 自然増について、「学校区別児童生徒数」の状況を問う。</p> <p>(3) 自然増に繋がる対策として実施された事業及びその効果を問う。</p> <p>(4) 社会増としてつながる対策として、実施された事業及びその効果を問う。</p> <p>(5) 国や県の考え方を踏まえて、人口減少対策として、今後の大局的な構想をどのように考えるか。 また、昨年の12月16日に開催された「お出かけ知事室～ともに未来を語る会～」がポッポ一館で開催された。その際、木村知事は、本町の議会議長の「県南の振興策」の意見に対する答えで、「球磨人吉は農業や林業、観光など、人吉球磨の良さを生かしたあらゆる産業の振興を図っていきたい。」とのことだったが、このことについてどのように考えるかを問う。</p> <p>(6) 人口減少対策としての重要な部分である物価高騰対策の中で、農業分野で畜産経営体の支援、認定農業者以外の農業機械の導入支援が決まったが、この支援について、町民の方の反応を問う。</p> <p>(7) 専業農家が安定して、後継者が存在して、あさぎり町を支えて頂くためにどのように考えておられるか。また、農業者をはじめとした人口減少が予想より早いスピードで進むので、財政の問題をはじめ諸対策の在り方について、第3次総合計画の変更の必要はないか問う。</p>	<p>町長 教育長</p>

令和7年度 あさぎり町議会 第8回会議(3月定例会) 一般質問通告書

			<p>(8) 農業者との意見交換や勉強会の現状を問う。</p> <p>(9) 人口減少対策の大きな柱は農業振興と思うが、もう一つは、これまで、本町の発展に貢献されてきた事業者の方々のご努力があります。今のこの事業所が減少しないような支援が必要ではないか問う。</p>	
		2 物価高騰対策について	<p>(1) 12月に物価高騰対策として多くの対策が決定した。今回の物価高騰対策をどのように捉えているか問う。</p> <p>(2) 国の方では、物価高騰で国民が苦しんでいる中、衆議院の解散で国の対策としての、物価高騰対策や子育て支援など山積する課題が予算編成も含めて対策が遅れている。したがって本町では、更に、令和8年度でも物価高騰対策が必要であると思うが、どのように考えているか問う。</p> <p>(3) 障がい者の方で、障がい年金の対象とはならず、一般就労もできないで、A型事業所、B型事業所等に通所されておられる方は生活そのものに困っておられる。 また、障がい者以外の方も含めて今後、物価高騰対策が実施される場合は生活困窮者への支援が必要ではないか問う。</p>	町長
5	(3番議員) 小谷 節雄			
	※施政方針への質問あり		施政方針以外の質問なし	
6	(11番議員) 皆越 てる子			
	※施政方針への質問あり		施政方針以外の質問なし	
7	(5番議員) 難波 文美			
	※施政方針への質問あり		施政方針以外の質問なし	

令和7年度 あさぎり町議会 第8回会議(3月定例会) 一般質問通告書

8	(8番議員) 森岡 勉 ※施政方針への 質問あり		施政方針以外の質問なし	
9	(1番議員) 小松 英一 ※施政方針への 質問あり	農業支援センター及びシルバー人材センターの今後の運営について	<p>(1) 農業就業人口の減少対策、農業経営体の在り方に対する町の考え方について問う。</p> <p>① 町内の農業就業人口の動向について ② 農業経営体の内訳と今後の見込みについて ③ 農業支援センターの6年度の運営実績について ④ 農業支援センターの今後の在り方について</p> <p>(2) シルバー人材センターの現状と今後の運営について問う。</p> <p>① シルバー人材センターの6年度の運営実績について ② 会員数の減少対策について ③ 物価高騰や最低賃金の引き上げによる発注者側の変化について ④ 町の関わり方について</p>	町長
10	(10番議員) 山口 和幸 ※施政方針への 質問あり		施政方針以外の質問なし	
11	(13番議員) 永井 英治 ※施政方針への 質問あり	<p>1 伝統芸能継承について</p> <p>2 丸池のリュウキンカの保護対策について</p>	<p>(1) 伝統芸能保持団体の現在の活動状況を問う。</p> <p>(2) 伝統芸能継承に向けた今後の方策を問う。</p> <p>(1) 丸池のリュウキンカの保護のために、これまで実施されてきた対策と現在の状況を問う。</p> <p>(2) 行政やボランティア活動のおかげで、一時期からすると株数も増加し、リュウキンカの復活に向けて明るい兆しも感じられるが、改めて今後の保護対策の方策を問う。</p>	町長 教育長 町長 教育長

令和7年度 あさぎり町議会 第8回会議(3月定例会) 一般質問通告書

<p>12</p>	<p>(12番議員) 溝口 峰男</p> <p>※施政方針への 質問あり</p>	<p>1 公営住宅空き室 対策並びに外国人 の入居及び共生社 会実現のための取 り組みについて</p>	<p>(1) 外国人の公営住宅入居に関する国土交通省 住宅総合整備課長名の新通知(2026年2月10 日付)では、①新規入居について、国籍や在 留資格を把握すること ②緊急時の連絡先 は、日本語で円滑にやり取りできる人とする こと ③既存の入居者についても、業務に過 度な負担が生じない範囲で実態把握を促すこ と 本町にも多くの外国人が企業等に就労して いる今日、外国人住民が安心して暮らせる環 境を整えるための施策は重要である。 外国人就労者の公営住宅入居及び申し込み (相談)の現況及び通知内容等に関する条例 等の整備について問う。</p> <p>(2) 外国人との共生社会実現のための具体的 施策について問う。</p> <p>(3) 公営住宅空き室対策について問う。</p>	<p>町長 教育長</p>
		<p>2 水道事業におけ るDXの活用につい て</p>	<p>水道事業は、人口減少に伴う水需要の減少 や施設の老朽化、職員の減少などの様々な課 題に直面しており、将来にわたって安全で良 質な水道水の供給を確保し事業運営を行って いくためには、運営基盤の強化とともに、業務 の一層の効率化を図る必要がある。このため DXを活用することで、自動検針や漏水の早期 発見といった業務の効率化に加え、ビッグ データの収集・解析による配水の最適化や故 障予知診断などの付加効果の創出が見込ま れ、水道事業の運営基盤強化につながるもの と考えられるが、今後の取り組みについて問 う。</p>	<p>町長</p>